復興支援の現場で学び

第３回ファミリーセミナーを開催

ＪＥＡＳ

工業会　日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、TEL 03・3355・2322、以下、ＪＥＡＳ）は、「現地で学ぶ復興支援～共に生きる」と題した第３回ファミリーセミナーを８月１日に実施した。親子などが参加し、東日本大震災で大きな被災を受けた福島県・浪江町役場の担当者から直接話を聞くなど、実際に現地に赴いて学びを得る機会となった。

今回のファミリーセミナーは、東日本大震災の被災現場に足を運ぶことが社会的な支援になるとの考えを踏まえ、親子などが専門家から復興支援の現状などを学ぶ機会として実施された。当日は42名が参加したが、参加者は０歳から70代までの幅広い年齢層だった。

行程は茨城県・牛久駅からバスで出発。車内では能登半島地震の報告に加え、経済産業省大臣官房福島復興推進グループ（福島事業・なりわい再建支援室）の大星光弘室長の講話があり、出席者は熱心に耳を傾けた。

午前中は２０１８年に、原子力事故の記憶と記録を残すとともに、事故を再度起こさないための反省と教訓を社内外に伝承するための施設として開設された東京電力廃炉資料館を訪問。午後は道の駅なみえの施設を見学した後、経済産業省から派遣されている浪江町役場企画財政課政策推進班の下地和樹氏が講話を行った。15ｍの高さまで津波が押し寄せた請戸小学校や大平山霊園にも訪れ、被害の大きさなどを参加者が自身の目で確認した。参加した子どもからは、ＪＥＡＳに「今日は楽しかったです。来年も参加したいです」というメールが届くなど、各々の参加者が復興支援の現状などを体感する有益な機会となった。

経済産業省の大星室長による講話

幅広い年齢層が参加

東京電力廃炉資料館